

研修医とともに学ぶ

嶋村 清志

公衆衛生

第72巻第4号～第73巻第7号

医学書院

人々から学ぶことの大切さを知る ～生命・生活・生きる権利を衛る医療保健福祉の拠点、 保健所研修は不要か？～

滋賀県甲賀保健所長 嶋村 清志

厚生労働省および文部科学省の「臨床研修制度のあり方等に関する検討会(高久史磨座長)」の議事録によると、「保健所や療養施設みたいな所は地域医療に入れないことをはっきりさせたい」という発言がなされています。医師としての人格の涵養を基本的な考え方にあげながら、今回の改正で、これまで必修科目であった地域保健・医療研修から“保健”だけを除外し、病院や診療所に限定した地域医療研修へと変更されるようです。本当に、保健所や施設での地域“保健”研修をなくしてしまっても良いのでしょうか。

新型インフルエンザの対応の拠点となって指揮をとったのは、まさに全国の保健所や自治体の衛生部局でした。私は保健所が人々の生命・生活・生きる権利を衛っている健康危機管理の拠点として、命がけて住民の健康を衛っていることを研修医にも学んでほしいと思っています。

地域“保健”研修は、医師法第1条「医師は、医療及び保健指導を掌ることによって公衆衛生の

向上及び増進に寄与し、もって国民の健康的な生活を確保する」という医師任務の原点に立ち返る絶好の機会になると思っています。公衆衛生の大切さを、施設や保健所での研修の大切さを、関係省庁はじめ多くの方々に知っていただきたいと思っています。

人格の涵養、全人的教育とは何か

当所では保健所長だけでなく、獣医師や薬剤師、保健師などコメディカルの指導のもと、精神対応や家庭訪問、感染症・食中毒対応など公衆衛生の第一線の現場を体験できるよう努めてきました(写真1)。また、地域の学習資源等を考慮しながら人格面を涵養できるよう、そして研修に臨む態度を重視するため、外部研修先の指導者すべてに対して研修医自らが電話等でアポをとるようにしてきました。

できるだけ公共交通機関等を利用して「研修医ひとり」現場に出向き、挨拶や自己紹介、TPOに合わせた服装の選択も研修の一環としてきました。現場に出向くことは「地域を知る(解剖にあたる)」方略だと考えているからです。「研修医ひとり」現場に出向いてもらう研修姿勢は、研修医を子ども扱いせず、成人として認めた上での研修であるからなのです。また、これは外部関係機関との基礎的な調整能力を獲得するプロセスを重視したもので、社会人としての成熟を目指す方略であると考えています。

逆に、この過程を知らないままの医師は、いつしか何かにつけて外部(他者)から調整してもらうことが当たり前になってしまいます。社会人であるにもかかわらず挨拶もアポを取ること、先方からしてもらうことが当たり前、そのようなこと

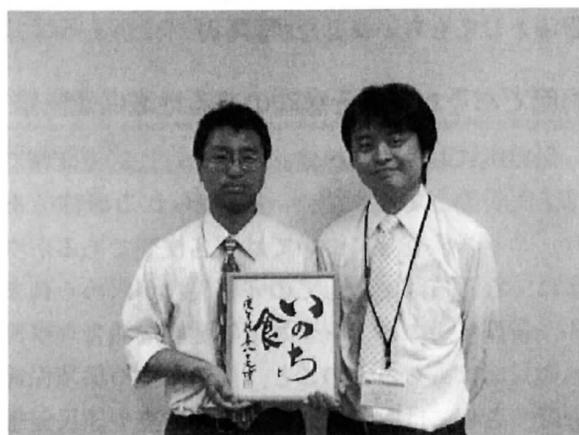


写真1 森永ヒ素ミルク中毒事件から学ぶ
(丸山博先生の書「いのちと食」を持って。左：筆者嶋村、右：研修医)



写真2 学校保健(感染症等の保健教育)

研修医自らプレスをしました。

は一般の社会では特殊であることを知ってほしいと思います。だからこそいろいろなところで自らが出向いてほしいし、「人々から学ぶ」という姿勢の大切さと謙虚さを学んでほしいのです。

医療制度や介護現場を知る絶好の機会

医療制度、とりわけ医療費の動向を知るため、当所では国民健康保険団体連合会での研修も取り入れています。レセプトのゆくえを知るため、特に高額医療については実際のレセプトを見て資料を作成し指導してもらっています。また、介護予防事業等への参加や訪問看護、介護保険認定審査会への出席、老人保健施設や老人ホームでの入浴や食事介助といった実践的研修も介護現場を知る機会となります。バスに乗って老人ホームに行くというプロセスも、地域を知る手がかりになります。さらに、障害者用の箸などの自助具も、ボランティアらと共に研修医が製作できるような方略も組んできました。地域保健研修を通して、医療レベルから生活レベルへの視点を養ってくれることを願っているのです。

医療現場だけでは学べない

対物保健・環境保健の大切さを学ぶ

対物保健は、地域を知る上でとても重要なメニ

ューです。食肉衛生検査所では、O-157やBSEなどの食の安全はもちろん、と畜場の歴史を学ぶという人権研修も包含しています。動物保護管理センターでは野犬の殺処分と子犬の譲渡会を通して、動物愛護の精神と人畜共通感染症を学んできました。

安全な水や空気、食品などは、恒常的かつ適正に処理されているシステムの上に成り立っています。日本が経験したさまざまな公害は決して過去のものではなく、研修医には環境と住民(臨床)の間には関連性があることを再認識してほしいと思っています。環境保健の大切さを学ぶため、下水処理場や不法投棄の現場への同行、特に感染性廃棄物の分別と中間処理、最終処分場の見学もしています。また、新型インフルエンザの検査等についても、24時間体制で検査業務を遂行していただいている地方衛生研究所へも、研修医を派遣し受け入れてもらっています。

医師会および産業保健・学校保健との連携

陸上自衛隊駐屯地がある高島保健所では、地元医師会や歯科医師会の協力のもと、駐屯地併設診療所を訪問し、健康危機管理および産業保健の立場から、隊員業務の実態と生活習慣病対策の必要性も認識できるようにと考えてきました。また地元の中学校と連携し、性行為感染症の出前教室の講師をしてもらいました(写真2)。

医師であるからこそ意味のある地域保健研修

保健所における結核健診などの対人保健研修では、医行為としての技術も求められる研修であり、エイズ検査等については匿名検査であるがゆえに、むしろ医師としての守秘義務が求められます。新型インフルエンザ対策等健康危機管理事例への対応はもちろんのこと、生活衛生や環境保健分野、さらには医療機関立ち入り検査や国民健康保険団体連合会での研修においても、守秘義務という点において、その重要性は同様であると考えています。

**表 近江聖人から学ぶ、
～指導者の自己研鑽として～**

五事を格す

1. 貌…人には和顔で接しなさい
2. 言…人には優しく話しなさい
3. 視…人には慈目で対しなさい
4. 聴…人の話をよく聞きなさい
5. 思…人には思いやりをもちなさい

(中江藤樹)

学生でなく医師免許がある研修医であるからこそ、医療機関立ち入り検査についても、病院側の了解が得られるわけで、守秘義務は単に患者個人だけを対象にしているものではなく、病院全体の情報についても守秘義務として課せられていることを、再認識してほしいと思っています。

国(地方)を癒す公衆衛生医師の確保に向けて

今般の医療制度改革を振り返ってみても、また最近問題となった新型インフルエンザ対策にしても、今まさに地域の公衆衛生施策そのものを迅速・的確に処方する優秀な医師(医系技官)が必要です。地方自治体や圏域に則した柔軟な対応が求められる昨今、地域で住民にとって最善の保健医療施策を、最高の技術で提供していく必要に迫られています。地域保健研修は、世界に冠たる日本の医療保健システムや、健康危機管理システムを、地域で創り育てる公衆衛生医師の確保・養成に繋がる機会になると思っています。

**指導者に求められる心構えから
研修医が学ぶこと**

指導者には、良医を育てようとする意欲と情熱

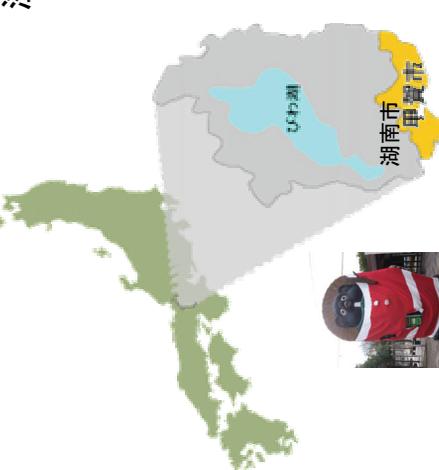


写真4 「ひこにゃん」とともに、筆者

が必要です。また人格の涵養という立場から、私は近江聖人、中江藤樹先生の教えをもって研修医に臨むようにしています。「五事を格す(ただす)」という教えは(表)、患者に臨む基本的態度として、また地域の住民と接する際の「人」としての当たり前の心構えとして、十分現代に通じるものです。保健所や施設での研修を通して、地域に自ら出向くことによって、地域の人々と接し、「地域の人々から学ぶこと」の大切さを知ってほしいと思っています。

なお、今回をもって本コラムを終了しますが、私のこのメッセージが今回の改正を再度見直すきっかけになることを心から願っています。長い間ご愛読をありがとうございました。

医師臨床研修における 保健所の取り組み

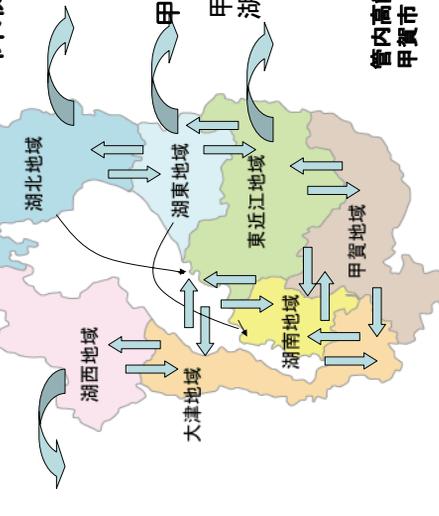


滋賀県甲賀保健所
嶋村清志




地域を丸ごと「人」に 見立てて、診る

滋賀県の二次 保健医療圏域



甲賀保健医療圏域
甲賀市 95,666人
湖南市 56,262人
計 151,928人
平成20年4月現在

管内高齢化率 18.8%
甲賀市 21.1% 湖南市 14.9%

地域は診る・知る ことから始まる

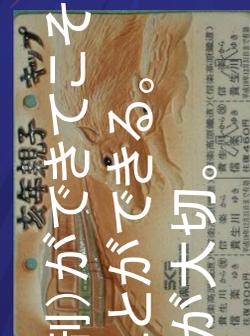


信楽高原鉄道



信楽高原鉄道

地域を診ること(解剖)ができる。
地域病理を考えることができる。
まず地域を知ることが大切。



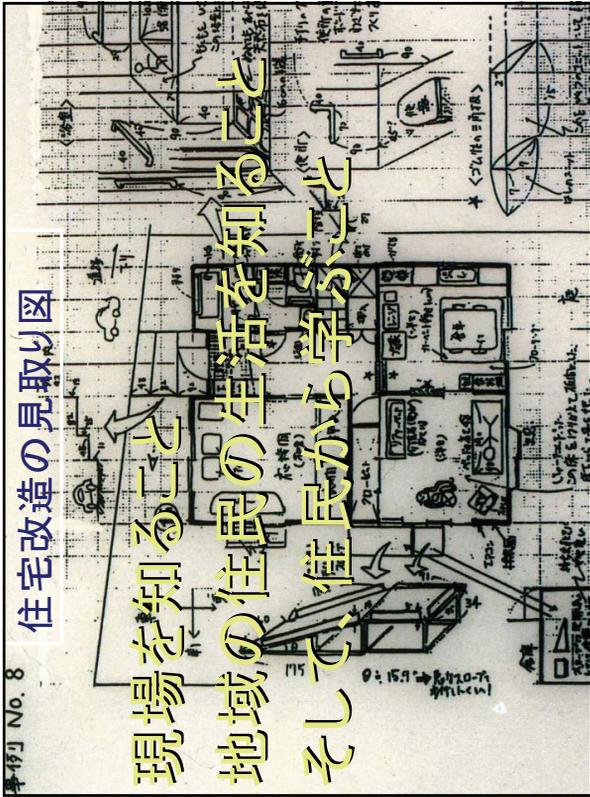
信楽高原鉄道

床走行式リフトとデントマーク シートを使った入浴介助



おこし医者





知的障害者の父「糸賀一雄」先生

地域の歴史を知ること
この子ら「を」世の光に



近江学園

思想の継承

昭和21年 大津市南郷に糸賀一雄によって創設された知的障害児・孤児の収容施設



薬の甲賀と忍術屋敷



滋賀県は全国シェアの2.8%に当たる1606億円の医薬品を生産している(全国14位)

甲賀にはジェネリック医薬品のメーカーも多いが日本におけるシェアは16.8%と諸外国と比べ低水準



近江商人と配置薬



薬業技術振興センター

研修でお世話になった施設

- 信楽中央病院
- 多羅尾診療所
- 近江学園
- 断酒会
- 感染症診査協議会
- ○○医院
- 動物保健管理センター
- 食肉衛生検査所
- シガチキンファーム
- 神山清子さん宅
- ○○薬品
- 介護認定審査会
- 衛生科学センター
- 国民健康保険団体連合会





信楽中央病院




信楽中央病院 多羅尾診療所(僻地診療所)



出発前に薬品等
必要物品の積み込み

車二台で
医師1人
看護師1人
事務員1人
薬剤師1人
の4人で出発

診療所の様子
毎週月曜に20~30人の
患者さんを診る。

機関名	責任者(〒) 担当	〒	所在地	関係項目	電話	フックス
1 茅ヶ崎病院	山本 隆	523	茅ヶ崎市茅ヶ崎	地域保健会、在宅看護	27-0889	27-1440
2 高崎市	清水 浩水	523	高崎市新堀町	高崎市の在宅医療、在宅診療、予防医療、生活保護、介護	25-8000	
3 高崎市介護保健課	松井 浩	523	高崎市今津	高崎市介護保健課	22-0210	
4 高崎市医師会	山田 隆	523	高崎市安曇	(資料提供(澤村松雄))	22-3525	
5 おかだ小児科医院	岡田 隆	523	高崎市今津	地域保健会、予防接種、学校保健	22-8071	22-8072
6 多期クリニック	多期 隆	523	高崎市安曇	産業保健、健康危機管理70委員会(市医師会)	34-0345	
7 堀井南科医院	堀井 隆	523	高崎市今津	市医師会(市医師会)	22-3886	
8 高崎県事務所環境福祉部	藤原 隆	523	高崎市今津	当院独自事業、産業保健(産業部及課)	32-3259	
9 高崎県事務所環境福祉部	藤原 隆	523	高崎市今津	環境保健部(環境課)	32-3259	22-5382
10 下野市	下野 隆	523	高崎市今津	環境保健部(環境課)	077-525-8101	
11 下野市	下野 隆	523	高崎市今津	環境保健部(環境課)	077-525-8101	
12 下野市	下野 隆	523	高崎市今津	環境保健部(環境課)	077-525-8101	
13 高崎南診療所	高崎 隆	523	高崎市今津	地域保健会(地域保健)	0748-37-8564	0748-37-8564
14 高崎南診療所	高崎 隆	523	高崎市今津	地域保健会(地域保健)	0748-37-8564	0748-37-8564
15 特別	特別 隆	523	高崎市今津	地域保健会(地域保健)	0748-37-8564	0748-37-8564
16 養老老人ホーム(東源園)	伊吹 隆	523	高崎市今津	養老老人ホーム	22-2207	22-1885
17 湖沼広域ハロワセンター	伊吹 隆	523	高崎市今津	地域保健会(地域保健)	38-0220(代)	
18 介護老人保健施設(光の里)	安井 隆	523	高崎市今津	介護老人保健施設	38-1220	38-1225
19 施設上野南除今津駐毛地区衛生	田中 隆	523	高崎市今津	施設上野南除今津駐毛地区衛生	22-2881	
20 安曇川中学校	中川 隆	523	安曇川町	中学校保健(健康教育等)	22-0007	32-4377

研修先が近づくにつれて研修医自身で研修先に入力をとる。

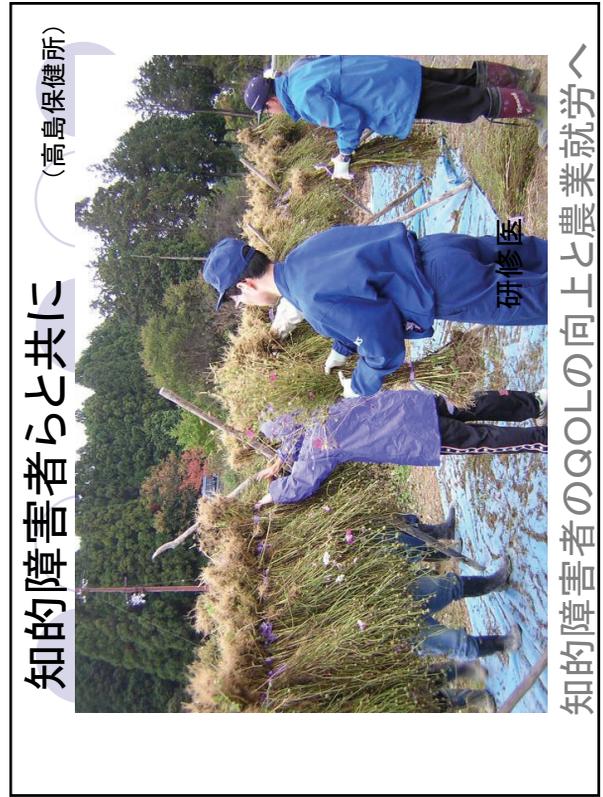
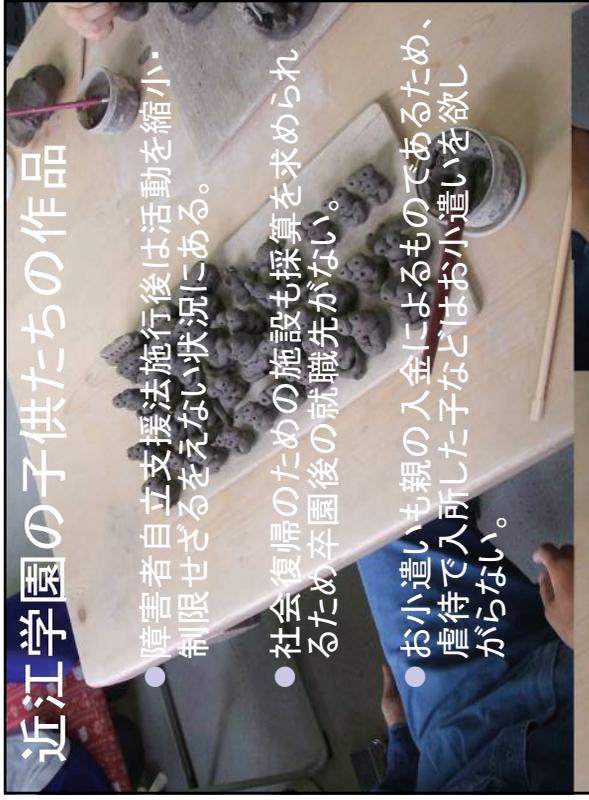


自然釉への挑戦、女性陶芸家としての生き方
滋賀 骨髄献血の和を広げる会長 神山清子氏の自宅
骨髄バンク映画「火の舞」の舞台になった。

生命を見つめた人の声を原点にもどって、聞こう。

近江学園 この子ら「を」世の光に

10月23日		24日	
8:30	職員朝礼	7:00	起床
9:00	オリエンテーション	7:15	3班にて朝食
9:30	園内見学	8:50	三雲養護学校送り
12:00	3班にて昼食	9:30	養護学校見学
13:00	作業療法見学	12:00	3班にて昼食
15:30	3班にて研修	13:00	医務室にて診察・5班にインフルエンザ予防接種
17:45	3班にて夕食	16:30	まとめ
19:00	入浴介助	17:00	終了
21:00	3班にて就寝		



精神障害者復帰教室



だれが研修医か、参加者わからない

〇〇医療センター（診療所）

- 研修では外来を担当させて頂きました。
- 大学病院とは違った症例を多く診ることができ非常に勉強になりました。



小児科の診療所で研修医が経験した疾患

- アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎、自己感受性皮膚炎
- おむつかぶれ
- 臀部真菌症、嚔口瘡、体白癬症
- 伝染性軟属腫、とびひ
- 気管支喘息、喘息性気管支炎
- 周期性嘔吐症、ウイルス性腸炎
- 上気道炎、扁桃炎、マイコプラズマ感染症、突発性発疹
- 肛門周囲膿瘍
- 口唇ヘルペス、ヘルペス口内炎
- 家族性大腸ポリポーシス
- アレルギー性紫斑病
- 伝染性紅斑
- 血友病



地域診療所 小児科医院 研修

- 診察
- 予防接種
- 新生児健診
- 乳児健診
- 採血
- ルート確保
- 胸腹部レントゲン撮影
- 講演会
- 地域ハトリール



診療所長が地域パトロールを兼ねた 趣味のジョギング。研修医も一緒に。



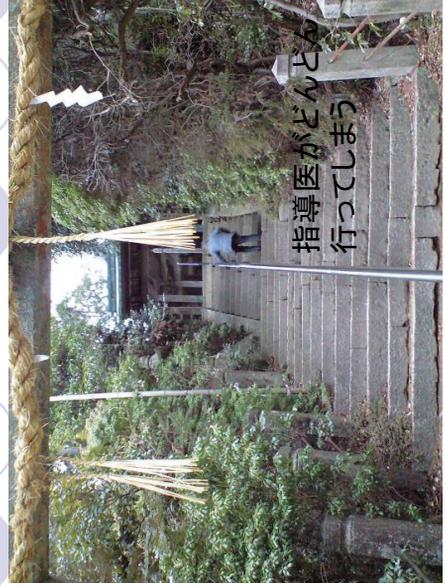
- ・約8kmの地域パトロール。
- ・朝・昼の2回あり、その後診療。
- ・地域を回りながらブタクサ等のアレルギーの原因となる植物の観察。

〇〇医院

- ・約半世紀前に開業。
- ・83歳にして今だに立ちっぱなしで診療。



石段も駆け上がります



休み時間には・・・

- ・「紫香楽宮」「廣徳寺」「田村神社」「水口の語源めぐり」など、沢山の名所旧跡を案内して下さった。
- ・「原発の危険性」「邪馬台国」「銅鐸から解き明かす日本史」など、興味深い持論を展開して下さいました。



指導医と患者の関係を見て・・

●「予見の義務」

「今あなたはこういう状態だから今後こうなる可能性がある」
「それに対してこうすればこうなるし、ああすればああなる」
「だから私はこうしようと思う。いいね」といった具合

温故知新。医師優位でも患者優位でもない、
新しい医師・患者関係の可能性を感じた。

病院立入検査

- この病院に実際に行ったのは初めて
- 防災設備、診療録、医療事故対策に関する検査に同行しました。
- → 具体的に何を検査するのかわかることが出来た。
- **今後経験する可能性が低い調査を行う側として貴重な経験ができた。**
- 行政の調査において病院にとって重要なこと
→ 昨年度の指摘を改善している。
求められた書類が整理された形で迅速に出てくる。



結核・感染症対策から学ぶ医の倫理と人権

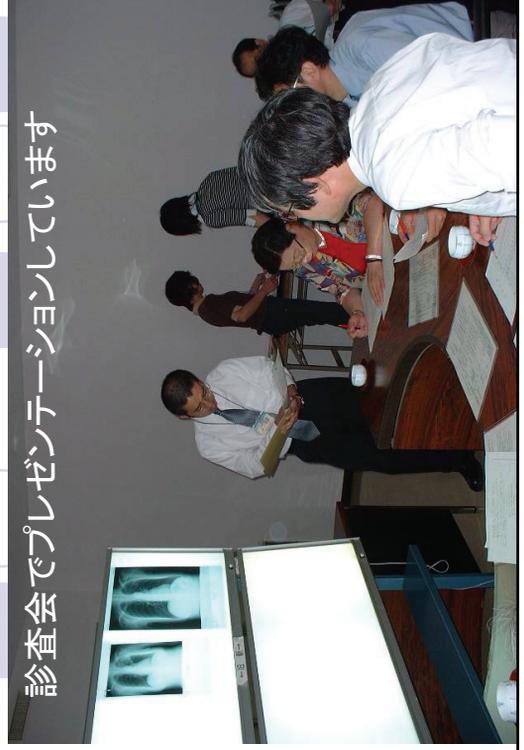
科学的根拠(EBM)に基づく防疫対策の
大切さと根拠なき偏見差別の払拭

**大谷藤郎先生は かつて甲賀保健所長を
されていきました。**

2001年5月熊本地裁で証言に立ち、過
度の人権を制限した当時のらい予防法の
違法性は明らかとした、あのハンセン病訴
訟の話をしていきます。

結核診査会

診査会でプレゼンテーションしています



子犬の譲渡会



シャンプー

野犬等の殺処分のあと・・・

- ・譲渡会は平日の午後に行われる。
- ・屋を抜きシャンプーをしてきれいにって譲渡会へ臨む。
- ・子犬はよくしつけられており全く吠えたり噛んだりしない。



食品衛生監視にも参画します



感染性胃腸炎が発生



研修医は現地で検便を回収

微生物検査・環境衛生業務 県立衛生科学センター



赤痢菌培養中の培地。

ウイルス検査室。後ろはP3検査室。

食肉衛生検査所

と場と地域の歴史、食肉衛生検査の大切さや、食の安全対策について具体的に述べ、と場を見学する。

内臓の検査

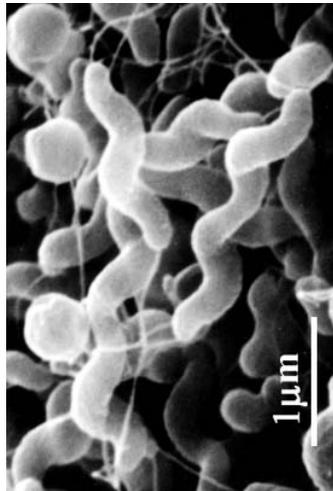


枝肉の検査



想像通りの劣悪な職場を体験させて頂く。BSE検査の流れを掴む。

カンピロバクターをこの目で見た！



食鳥処理場の食鳥の処理羽数：約47万羽
(合格：約43万羽)
良質な鶏肉（飼育期間150日）



健康危機管理

高病原性鳥インフルへの対応



毒劇物立入調査

フッ素樹脂の加工により、半導体、フラットパネル、薬液タンク及び種々の部品を製作している工場。

生活衛生課と環境課の合同で行われた。

提出された書類(工程、排水処理、大気、振動騒音など)の審査の後、現場の立入調査が行われた。

毒劇物としては
塩酸、水酸化ナトリウム、アンモニア、亜硝酸ナトリウムを保管。
法令を遵守し、保管されていた。

環境保護のための調査以外のみならず、工場員の仕事内容を知ることが出来た。



〇〇薬品工業(製造部)

製造部の見学では2回の更衣が必要であった
エアシャワーを受け、粘着テープで埃を取る
→徹底した衛生管理がなされている。
有効成分が空気に舞うためマスクは必須



品質に関しては各工程で検査を行い、確認した後次の工程へ進む。

ロット毎にサンプルを保存し、出荷前の検査を行う。
有効期限から少なくとも1年保存し、問い合わせに対応す



トリカブトを実際に見た！

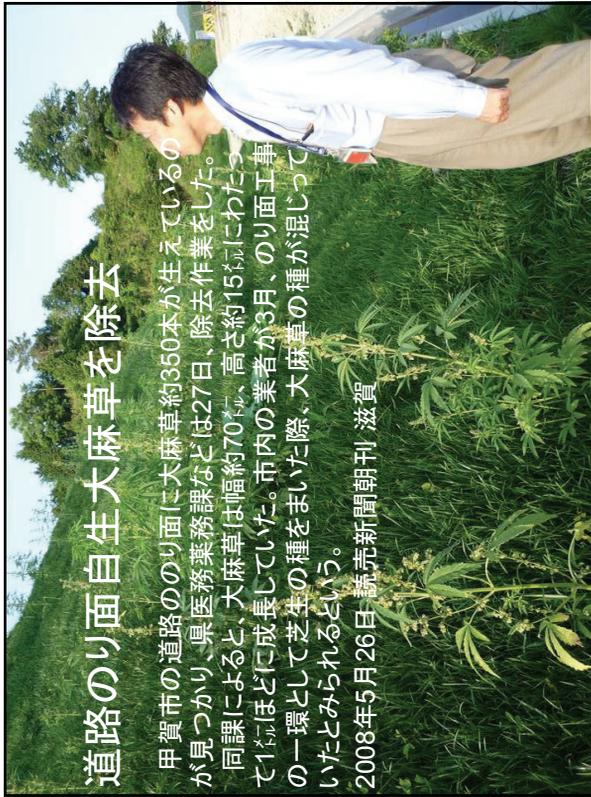


根に最も毒を持つ

特徴的な葉を持つ

ケシの除去





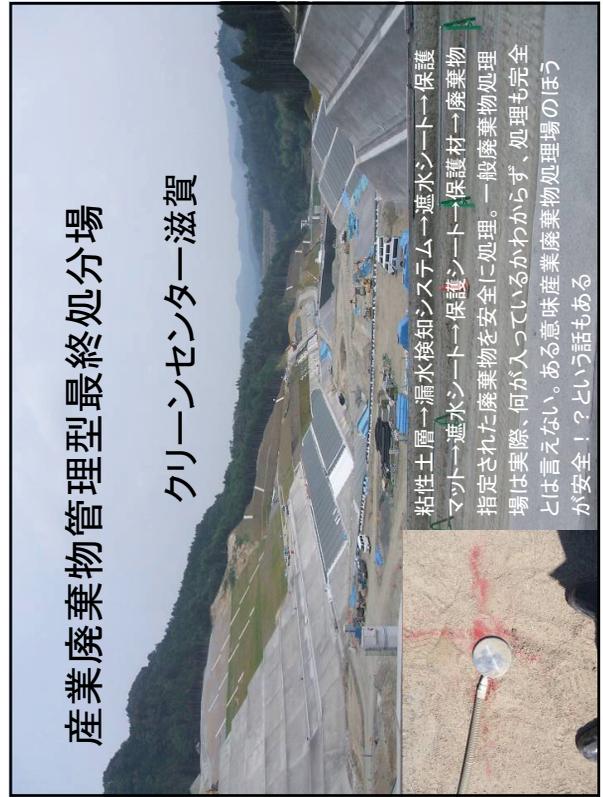
道路のり面自生大麻草を除去

甲賀市の道路のり面に大麻草約350本が生えているのが見つかり、県医務薬務課などは27日、除去作業をした。同課によると、大麻草は幅約70cm、高さ約15cmにわたって1メートルほどに成長していた。市内の業者が3月、のり面工事の一環として芝生の種をまいた際、大麻草の種が混じっていたとみられるという。

2008年5月26日 読売新聞朝刊 滋賀

不法投棄パトロール

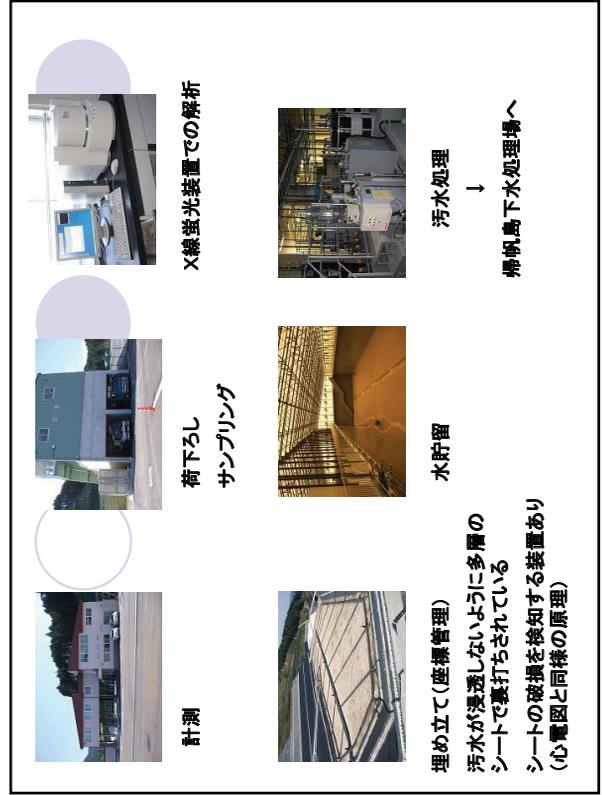
- 管内の不法投棄が頻回に行われている場所の見回りを行った。
- 最近ではリサイクルが行われる事が多くなり、以前より産業廃棄物は減っているとのこと。
- 一般廃棄物は以前より増加している。
- 地域住民のボランティアでゴミ処理を行っている。



産業廃棄物管理型最終処分場

クリーンセンター滋賀

粘性土層→漏水検知システム→遮水シート→保護マント→遮水シート→保護シート→保護材→廃棄物指定された廃棄物を安全に処理。一般廃棄物処理場は実際、何が入っているかわからず、処理も完全とは言えない。ある意味産業廃棄物処理場のほうが安全！？という話もある



国保診療報酬審査会

- レセプトの事務審査についてご指導を頂いた。
- 病名の書き忘れが多いとのこと。
- 今後はオンライン化していく方針。
- 診療に伴う医療のみならず、レセプト処理や統計処理に多大な労力、費用がかかっていることを体験した。
- 医療機関では目に見えない部分である。



テロ対策等の危機管理を学ぶ



○ 産業保健
(自衛隊内 医科・歯科診療所見学)

自衛隊駐屯地内診療所研修



産業保健、NBCテロ等健康危機管理について学ぶ

研修医の感想

- 甲賀保健所は保健所内での作業より他施設へ行き体験する形の研修が多い。
- 講義はほとんどなく、まず実際に参加しやってみるということが多い。
- 保健所の職務に留まらず、地域にある多くの施設を見学・研修できる。
- 介護・衛生・福祉等の机の上の知識でしか知らなかったことを初めて実際に目、鼻、耳で経験できた。
- この世の中の原理が理解できた。

近江聖人

中江藤樹

全人的教育とは何か
■ 態度教育、成人教育のあり方
■ 大野了佐（藤樹門下の医師）
 藤樹曰く「おまえは、やさしい……」



近江聖人から学ぶ、瞬間聖人 ～指導者の自己研鑽として～

五事を格す

1. 貌……人には和顔で接しなさい
2. 言……人には優しく話しなさい
3. 視……人には慈目で対しなさい
4. 聴……人の話をよく聞きなさい
5. 思……人には思いやりをもちなさい

中江藤樹

Go to the people

- Go to the people 人々の中にいきなさい
- Live with them 人々とともに住み
- Love them 人々を愛し
- **Learn from them 人々から学びなさい**
- Start with what they know 人々が知っていることから始め
- Build on what they have 人々が持っているものから築きなさい
- But of the best leaders しかし優れたリーダーが
- When the task is accomplished その仕事が完成したとき
- The work is done その仕事が終わったとき
- People all remark 人々は次のように言うでしょう
- We have done it ourselves 「これは我々でやったのだ」と

研修医からのことば

- 体験型の研修が多く、非常に有意義あった。
- ぜひ後輩達にも同じような経験をしてもらいたい。

しかし！

保健所研修が必修でなくなる！

平成22年度からは臨床研修制度が見直し
「地域医療・地域保健」→「地域医療」
診療所での研修を原則とする



診療所研修のみとなり、
保健所研修が消滅する？
せめて選択科目として残るよう
に
アプローチすべき

新医師臨床研修

地域の先生の生き方を学ぶ

「医師は医師だから学ぶもので
はなく患者や住民から学んでこ
そ良医になれるもの」

「人は人から学ぶもの」

研修医とともに学ぶ 医学書院

研修医の受け入れ期間は？

研修医の受け入れ期間は？	回答数	回答率
長くなる予定である	0	0.0%
ほとんど変わらない	53	20.6%
短くなる予定である	12	4.7%
受入れはなくなる	34	13.2%
その他	10	3.9%
現時点ではわからない	140	54.5%
無回答	8	3.1%
計	257	100%

「自分が当事者(住民)だったら
どうしてほしいかを考えること。」

師匠のことは

- 1 民主性(住民の参加によって)
- 2 総合性(健康の立場から)
- 3 現地性(住民の身近で)
- 4 技術性(最高の技術で)

終わりに

今回の医師臨床研修制度の見直しを受け、必修科目であった「地域保健・医療」研修は、任意研修としての選択科目「地域保健」研修となりました。研修病院の中には、地域保健研修を全く考えていないところもあることから、今後は現場（保健所）サイドから研修医のニーズに応えるべく斬新で、かつ興味深い「地域保健」研修プログラムを提示するなど、保健所がこれまで以上に積極的なアプローチをしていかないと「地域保健」研修は消滅しかねない状況にあります。

研修医は学生ではありません。医師免許をもった成人（社会人）です。講義主体の学生実習スタイルではなく、医師免許をもった成人教育としての研修「医」としての実地研修が求められていると思います。

今回、全国調査をはじめ、多くの保健所からプログラム例を中心にさまざまな関係資料をお送りいただきました。それらを匿名化し、いくつかを例示としてまとめることができました。

今後、任意研修として選択してくれる研修医に対して、そのモチベーションと研修ニーズに答えられるよう、充実した地域保健研修プログラムの作成に関してこの報告書がお役に立てば幸いです。当研究班では、来年度も指導医（者）開発ワークショップが開催できるよう積極的に取り組んでいきたいと思っています。

全国の保健所がともに協力しあって、優れた医師、ひいては優れた公衆衛生医師を育てるという気持ちを持ち、研修プログラムの作成に取り組んでいただきたいと思います。これは長い目で「人を育てる」という視点に立った「人づくり」であり、保健所に勤務する職員や我々自身の成長にも繋がる大切な仕事だと思います。日本のどこかで、すばらしい地域保健研修が実践され、脈々と継承されることを願ってやみません。

最後に、今回の調査にご協力いただきました各保健所に心より感謝申し上げますとともに、公衆衛生医師の人材育成、人材確保に関する意見交換・医学部教授等訪問事業におきまして、15 大学 16 の公衆衛生学教室の先生方には、お忙しい中、訪問の上、意見交換をさせていただきましたこと併せてお礼を申し上げます。

医師臨床研修「地域保健・医療」の成果と課題に関する研究
分担事業者 嶋村 清志（滋賀県甲賀保健所）

平成21年度地域保健総合推進事業
医師臨床研究「地域保健・医療」の成果と課題に関する研究
報告書

発行：平成22年3月

分担事業者：嶋村 清志（滋賀県甲賀保健所長）

〒528-8511 滋賀県甲賀市水口町水口 6200

TEL 0748-63-6111

FAX 0748-63-6142



医師臨床研修「地域保健・医療」の成果と課題に関する研究報告書